

### 「水鳥と人とのかかわり」

1980年代ごろから全国的に増えているカワウは、アユなど魚を食べるためびわ湖や川の漁師さんにとって厄介な存在となっています。様々な魚が減る中で、漁師さんにとってアユは大変重要な魚なのです。またカワウやサギは集団で木の上に巣を作ります。枝や葉を折り取ったり、ふんを落としたりすることで、木が枯れるので、お寺や神社の景観が悪くなったり、ふんが建物や人にかかったり、匂いや鳴き声の問題となったりします。数や分布、人との関わりが変わることで鳥と人との間に問題が生まれることもあるのです。